

# 観測所 宇宙空間 内之浦

1963年12月に開所された内之浦宇宙空間観測所は、ロケット開発の父と呼ばれる糸川英夫博士の肝いりで生まれたロケット発射施設です。

世界でも珍しい山地にあるロケット発射場で、これまで大小400機を超えるロケットと、日本最初の人工衛星「おおすみ」を含む30機あまりの人工衛星・探査機が打ち上げられてきました。

10周年に寄せて



内之浦  
宇宙空間観測所  
峯杉 賢治 所長

かつて海でつながっていた二つの町が、今や兄弟として宇宙でつながり、多くの人々の想いを宇宙に届けることに多大な貢献をいただいていることに深く感謝します。この兄弟の絆が津々浦々に広がり日本の宇宙開発が飛躍的に発展することを夢見しています。



## ▼ M台地 & 整備棟

もともとはミューロケットの発射を行う施設で、組み立て、管制、発射装置などの機能を備えています。M-Vロケット廃止に伴い現在はイプシロンロケット打ち上げ用に改修されました。ランチャは整備棟から棟外に旋回して固定されます。



## ▼ イプシロンロケット



費用対効果に優れたロケットを実現させるために開発されたM-Vロケットの後継機です。平成25年の試験1号機を皮切りに計6機が打ち上げられました。今後はイプシロンを改良したイプシロンSへと運用が引き継がれます。

## ▼ 34メートルパラボラアンテナ

内之浦宇宙空間観測所の一番高い台地に設置され、地球周回軌道の科学衛星及び宇宙探査機との交信を行う1988年に完成したアンテナです。また白田宇宙空間観測所のパラボラアンテナのバックアップとしても位置づけられています。



©JAXA

# 種子島 宇宙センター



©JAXA

## ▼ 固体ロケット試験場



©JAXA

強い推進力を生み出す固体ロケットブースタの地上燃焼試験を行う竹崎射撃場付近に設けられた施設です。

試験場はコの字型の防爆壁(土手)に囲まれ、海側の排出部に炎を上方に跳ね上げるデフレクタというコンクリート構造物が設置されています。

## ▼ H-IIAロケット

人工衛星打ち上げ用の液体燃料ロケットで、日本の基幹ロケットに位置付けられています。2001年から運用され、信頼性の高い大型主力ロケットとして打ち上げミッションを支えています。2024年を最後にH3ロケットが後継機となります。



©JAXA

## ▼ 宇宙科学技術館



©JAXA

打ち上げの臨場感を体験できるリフトオフシアターや「きぼう」日本実験棟実物大モデルなど宇宙開発における様々な分野を楽しみながら学べる施設です。またキッズコーナーやグッズ販売もあり、家族連れでも過ごせる施設となっています。

種子島東南端の海岸線に面していて、世界一美しいロケット発射場と称される種子島宇宙センターは、1969年に本格的に運用が開始されました。

総面積970万平方メートルで日本最大のロケット発射場でもある同施設では、人工衛星の最終チェックからロケット打ち上げ後の追跡まで一連の作業が行われています。

10周年に寄せて



種子島  
宇宙センター  
川上 道生 所長

宇宙兄弟宣言10周年、おめでとうございます。これまで、両町から人々の夢や希望を搭載した数多くのロケットが打ち上げられましたこと、それを支えて頂いていることに深く感謝いたします。今後の両町と日本の宇宙開発の益々のご発展をご祈念申し上げます。